

平成 22 年 4 月 23 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007 ～ 2009

課題番号：19520087

研究課題名 (和文) ヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画に関する包括的研究

研究課題名 (英文) The Comprehensive study on the Via Latina Catacomb in Rome

研究代表者

宮坂 朋 (MIYASAKA TOMO)

弘前大学・人文学部・准教授

研究者番号：80271790

研究成果の概要 (和文)：4 世紀末のローマのヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画は通例の新約聖書主題だけでなく、特異な神話・哲学・旧約主題を選択し、古典的な建築枠組みの中に表現している。全体として回顧的で、様々な宗教に改宗した古代末期のローマ貴族の宗教事情が反映している。ローマ建国とアウグストゥスに縁の図像 (ヘラクレス、テッルス) や哲学主題には、発注者であった古代末期ローマ貴族の正統性への強い主張を読み取ることが出来る。また通例とは異なるモデルブックを使用した画家が行った創意を見て取れる。

研究成果の概要 (英文)：The paintings of Via Latina Catacomb of late 4<sup>th</sup> century in Rome, represent some never repeated iconographies of mythology, of philosophy, and of Old Testament, other than common scenes from the New Testaments, in the architectural framework with classical taste. They are retrospective, and reflect the religious situation in late antiquity. The patron Pagan Aristocracy, expressed the strong pretension of their legitimacy, choosing the scenes concerning the foundation of Rome and Augustus (Hercules & Tellus). The Painters exercised their ingenuity using the model-books different from the those of common catacombs.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学美術史

キーワード：カタコンベ、壁画、古代末期、異教、キリスト教、旧約聖書

## 1. 研究開始当初の背景

古代末期考古学の新しい枠組みが近年整備されてきたにもかかわらず、古代末期の美

術が美術史や図像解釈学、あるいは、キリスト教考古学、碑文学といった古めかしい枠組みのなかで研究されていることに対する反

省から、一つの墓地壁画についての包括的な研究が必要であった。

## 2. 研究の目的

考古学、美術史学、碑文学などの広範囲な領域に関わる研究であり、ヴィア・ラティーナ墓室壁画に関して、①墓室壁画全体の包括的図像解釈；②墓碑銘・地上遺構研究を通して発注者の身分や宗教；③壁画における建築再現について美術様式の流れにおける位置づけ；④キリスト教時代における非キリスト教主題採用の枠組み、を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

ローマにおける現地調査と図書館における資料収集により、研究を進めた。

## 4. 研究成果

まずローマ絵画様式史の観点から、建築表現の解体の進んだ古代末期の壁画とは逸脱した古典復興の様式を明らかにした。一方で、人体表現については、北アフリカの床モザイクの様式の影響が強く見られ、4世紀の特徴を良くあらわす。神話主題については復古的絵画様式と同調したアウグストゥス時代に立ち返る異教的貴族の正統性の主張を読み取った。哲学主題については、真の哲学の主張、旧約主題については4世紀の貴族の改宗の実態を反映するものである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 宮坂朋 「半開の扉 —ヴィア・ラティーナ・カタコンベ墓室 F 壁画図像解釈—」、『美術史』166号、査読あり、2009.3、pp. 397-410.
- ② 宮坂朋 「ローマのヘルクレス/ヘラクレス」『第16回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』査読なし、2010.3、pp. 76-77.

[学会発表] (計 4 件)

- ① Izumi, Nishiyama, Tsujimura, Miyasaka, 2009年11月11日 'The Preliminary Report of the Excavation at Ramali, in Tyre', LeVIIeme congres international des etudes pheniciennes et puniques, La vie, la religion et la mort dans l' univers phenico-punique, Hammamet: 10-14 novembre 2009、チュニジア共和国。

- ② 宮坂朋 2009年7月5日「ローマのヘルクレス/ヘラクレス」、第15回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会」(金沢大学)
- ③ Tomo Miyasaka, 2008年12月16日 ' Sulla pittura funerale del TJ04 nella Necropoli di Ramali, Tiro, Libano (イタリア語) パレルモ大学考古学特別講義、イタリア共和国
- ④ 宮坂朋 2007年5月25日 「半開の扉—ヴィア・ラティーナ・カタコンベ墓室 F 壁画」九州国立博物館、第60回美術史学会全国大会

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

- (1) 研究代表者  
宮坂 朋 (MIYASAKA TOMO)  
弘前大学・人文学部・准教授  
研究者番号：80271790
- (2) 研究分担者 ( )  
研究者番号：
- (3) 連携研究者 ( )  
研究者番号：